

なごやの産業遺産「松重閘門」

遠くに聳える「松重閘門」に、小さいときから関心をもっていた。ゼミ生の報告にも触発されて、とにかく自転車に乗って訪ねてみた。高さ 20m ほどの 2 基 1 組の塔は、近くで見ても堂々としており、なかなか風格があった。

「松重閘門」は、中川運河と堀川を結ぶ水路の水位調節を目的として昭和 6 (1931) 年に



供用され、名古屋の経済発展に重要な役割を果たしてきた。輸送手段の変化にともない、昭和 51 (1976) 年にその役割を終えた。名古屋の歴史的な産業遺産であり、都市景観重要建築物等に指定されている。



2 基 1 組の塔を写真に撮ると、高層ビルや高速道路が入ってしまう。風格のある産業遺産も、周辺環境と調和をとれてないのが残念だ。閘門あたりは公園になっているが、あまり整備されていなく、ブルーのシートが目についた。案内板も一部が焼けていた。せっかくの歴史的遺産をもっと大切にしたいものだ。橋のうえに多くのカモメが並んでいたのと、二人の若い人が写真を撮っていたのが印象に残った。

(2008年1月22日 記)